

- ◎家畜伝染病の防疫対策にしっかりと取り組もう。
◎公共牧場の有効活用と自給飼料の安定確保を進めよう。

<要約>

◇ 乳用牛 ～乳質・乳成分データのチェック～

出荷乳の乳質・乳成分データをチェックし、良質な生乳生産を心がける。特に、体細胞数が増加している場合、牛の状態を確認し、乳房炎感染牛があれば早期治療に努める。また、細菌数の増加を防ぐため、搾乳機器等の日頃の洗浄・殺菌作業を再点検するとともに、バルククーラーの異常にも注意する。

◇ 肉用牛 ～放牧中の飼育管理～

ダニが媒介し、小型ピロプラズマ原虫が原因となるタイレリア病（ピロプラズマ病）の発生を防止するため、放牧期間中は定期的に殺ダニ剤を使用するとともに、異常がみられる場合は速やかに退牧し、治療する。

◇ 豚 ～肉豚の飼育管理～

肉質の低下を防ぐために、豚舎内の温度管理や適切な飼料給与に注意する。また、異常肉の発生を防ぐため、飼育中及び出荷時のストレスを軽減させる。

◇ 鶏 ～あすなろ卵鶏の飼育管理～

あすなろ卵鶏の飼育に当たっては、鶏舎様式、飼育密度に注意し、発育段階に応じた採卵鶏用配合飼料を給与する。

◇ 草地・飼料作物 ～草地及び飼料畑の管理～

- 1 消雪が早く好天が続いたことから、オーチャードグラス晩生品種はすでに開花期に、チモシー中生品種は出穂期に達しているため、早期刈取りに努める。
- 2 アワヨトウの早期発見に努め、発生が確認された場合は直ちに刈り取る。



報道機関用提出資料	
担当課 担当者	畜産課 経営支援グループ 加藤技師
電話番号	直通 017-734-9496 内線 3276
報道監	農林水産部 油川次長 内線 3182